

「歴史の道中山道碓氷峠越整備基本計画」策定のための意見（パブリックコメント）の結果について

○意見の募集期間：令和2年11月16日（月）から令和2年11月30日（月）

○意見等の受付件数：7人 21件

（提出方法の内訳：持参2人、郵送2人、ファクシミリ2人、電子メール1人）

## 1. 意見の概要及び市の考え方

### （1）第2章 中山道碓氷峠越の歴史的・地理的環境について

番号	ご提出いただいた意見等の概要	市の考え方
1	<p>中山道碓氷峠越は、本市のまちづくりに寄与できる下地が充分にあると思います。とりわけ、堂峰番所跡は、碓氷関所の遠見番所として、極めて大切な場所です。</p> <p>また、中山道と東山道の合流地点であり、監視等に最適な見晴らしのよい場所です。さらに、番所跡や同心の住宅の遺構などが確認でき、それに係る史料も豊富に保存されています。</p>	<p>貴重なご意見として、堂峰番所の解説サインを作成する際、参考とさせていただきます。</p>
2	<p>助郷制度のことや、この峠道を整備した人々のことを、ゆくゆくとりあげてもらえれば、よいと思いました。</p>	<p>本計画は、保存のための整備に主眼を置いておりますので、いただいたご意見については、今後、まとめる予定の「古道の価値づけ調査（仮称）」にて整理していきます。</p>

### （2）第5章 整備基本計画 5.2 方針1について

番号	ご提出いただいた意見等の概要	市の考え方
1	<p>季節にもよりますが、軽井沢方面からオートバイが時々下ってくるので、留意していただきたいです。</p>	<p>本道は、市道であるため、オートバイの進入を全面制限することができません。</p> <p>そこで、オートバイほか一般車両の通行に対して、歴史環境の保護等</p>

		に対し、「注意喚起サイン」を設置し、一般車両の通行は控えていただく案内を行う予定です。
2	・ 芻石山を下る急坂から峠道入口までの坂の整備	方針1「往時から続く道の連続性を保持し、歩ける環境を整える」の整備基本計画図（51-52 ページ）を基本に整備を進める予定です。

(3) 第5章 整備基本計画 5.2 方針2について

番号	ご提出いただいた意見等の概要	市の考え方
1	堂峯番所の近くには、甲斐武田勢が築いたといわれる愛宕山城跡があり、良い状態で遺構が確認できます。今回の計画にはないですが、将来的には興味深いスポットになると思うので、本計画でふまえてほしいと思います。(C9から歩いて10分以内であり、手軽に行ける場所です)	本整備計画は、分間延絵図のルートを中心に策定しており、江戸期以外の歴史的資産は、時代区分が異なるため、対象としておりません。ご理解をお願いいたします。
2	・ 芻石山付近にあった寺（神社）の跡地の整備	本整備計画は、分間延絵図のルートを中心に策定しており、ルート以外の歴史的資産は対象としておりません。ご理解をお願いいたします。
3	以下の3箇所は(いずれも民有地内)面として保存整備することをお願いします。 1. 堂峯番所跡＝現在はスギ林に囲まれて全く見通しが悪い。遺構整備は次の段階だと思うが、短期計画の段階で北東方面の相当範囲の樹木を伐採して眺望を取り戻し、休憩用のベンチを置いて欲しい。 2. 芻石茶屋跡＝雑木を伐採して跡地を明るくし、茶屋本陣跡に	ご指摘の箇所の整備は、方針2「道筋に沿う「難所越え」にまつわる歴史的資産を継承する」の整備基本計画図（71-72 ページ）を基本に整備を進める予定です。 なお、計画実現にあたり、市所有以外の土地もあることから、今後、これらの所有者様と調整を行っていく予定です。 ご提案いただいた内容は、今後、それぞれの場所での具体的な整備内容を定めていく際の参考とさせ

	<p>説明板とベンチを設置して欲しい。</p> <p>3. 山中茶屋跡＝地蔵堂跡、茶屋本陣跡、佐藤家ほかの墓地などの特に道路北側の樹木を伐採して墓場尻川方面の眺望を良くし、石地蔵に覆屋根を付け、説明板とベンチを設置して欲しい。</p>	<p>ていただきます。</p>
--	---	-----------------

(4) 第5章 整備基本計画 5.3 方針3について

番号	ご提出いただいた意見等の概要	市の考え方
1	<p>(4)「方針3」に関する整備計画 ①方針と基本計画図(75-76ページ) A. 管理施設及び便益施設に関する計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレの設置場所について、峠越をより快適に行えるために、「3-B-3」(栗ヶ原、刎石茶屋跡付近の四阿、カーブ9)とともに、山中茶屋跡付近にも設置した方が良いのではないかと思います。</li> </ul>	<p>本整備計画では、既存四阿の拠点を活用するとともに、中間地点に新たに1地点、トイレ設置を含む休憩拠点を検討した経過がございます。</p> <p>経過のなかでは、「山中茶屋跡」と「栗ヶ原」が設置候補場所にあげられましたが、道中の中間地点で、かつ御巡幸道路との分岐点で来訪者の往来頻度が高い、「栗ヶ原」に絞り込みました。</p> <p>なお、トイレ以外の便益施設は、「栗ヶ原付近」、「刎石茶屋跡付近」、「カーブ9」の3つの場所で整備予定です。</p>
2	<p>堂峰番所の標識整備をする際には、脇にでも「遠見の番所」という表現を付け加えていただければありがたいです。</p>	<p>今後、堂峰番所の解説標識を設置する際、解説内容に「遠見の番所」を含めることを検討していきます。</p>
3	<p>この峠にはいろいろな動物が生息しており、特に子育てのサルは危険ですので、留意していただきたいです。</p>	<p>中山道碓氷峠越では、来訪者の自己責任のもとで利用していただくことを前提に整備を進めていきます。</p> <p>そこで、出入口には、来訪者の注意喚起を促すため、野生動物の出没</p>

		の可能性や遭遇時の対応について案内サイン等で情報提供する考えです。
4	・峠道に実在する石塔や石垣や墓等の説明板の設置あるいは、新しく建替え(どのような歴史的な価値や意義があったか等の説明)	サイン整備計画(81-82ページ)を基本に整備を進める予定です。歴史資産を紹介する解説サインを設ける計画です。
5	・峠道途中の見晴し台の整備	「覗き」は往時の眺望点であったことから、景観支障木を剪定しながら、かつての眺めを整備します(74ページ)。 このほか、散策中に、眺めがよい展望地点には、立ち止まれる場所の確保や、休憩施設を設置します。妙義山が眺望できる地点、座頭転がし付近を予定しています(78ページ)。
6	(4)「方針3」に関する整備計画 ①方針と基本計画図(75-76ページ) B.案内・解説施設に関する計画 ・情報ガイダンス的な施設は、本ルートに設置しないが、碓氷関所など大拠点にて対応とあるが、碓氷関所の整備等、本計画と同時並行に進めるべきではないかと思えます。	本計画範囲は、中山道碓氷峠越の約8kmであるため、碓氷関所等、本範囲外に関する内容は、本整備計画とは別で今後検討していきます。
7	(4)「方針3」に関する整備計画 ①方針と基本計画図 B案内・解説施設に関する計画 ○情報ガイダンス的な施設は設置しない(碓氷関所(範囲外)など大拠点にて対応する。)に関する意見です。	本計画では、中山道碓氷峠越の約8kmの保存のための整備を主対象としています。このなかで、ガイダンス施設は、この道筋近くには設けず、碓氷関所とその周辺で設置することが望ましいという考え方を定めました。 この施設に関しては、今後道筋の

<p>碓氷関所にある資料館は老朽化し、手狭で古道に関するガイダンス施設として使用できるものではない。</p> <p>また、資料館の設置は国指定を待つ必要がなく、市が来訪者を迎え入れるうえで、備えておく施設だと考える。</p> <p>そこで、碓氷関所近くにある後閑家（現在、空き家。同心後閑円蔵の屋敷）を利用させていただくのが、よいと考える。これは、古道の情報発信基地となるほか、関所、市の名所旧跡等の紹介場所となり得る。</p>	<p>整備にあわせ想定される碓氷関所の整備に関する検討の際に具体化していくこととなります。</p> <p>いただいたご意見はその参考とさせていただきます。</p>
--	---

(5) 第6章 事業の将来展望及び課題について

番号	ご提出いただいた意見等の概要	市の考え方
1	<p>本計画は、道及びそこに点在する多くの歴史遺産の整備基本計画が詳細に、かつ将来を見据えて策定されており、安中市民として大いに嬉しく心から賛同します。</p> <p>本事業が順調に推進されることを祈るとともに、当初の目標である堂峯での調査をできるだけ早い段階で開始することを切に願います。</p>	<p>「6.3年次計画」をもとに、事業を進めていく予定です。</p> <p>堂峰番所についても、本年次計画をもとに遺構調査等を進めます。</p>
2	<p>安中市の貴重な観光資源として将来に亘り継承してゆくためには、整備が完成した後の保存・活用が大事と思います。継続的なPR活動や維持の為の改修計画等をしっかりと準備し、安中市の活性化に大いに役立たせてゆきましょう。</p>	<p>「6.3年次計画」をもとに、事業を進めていく予定です。</p> <p>国の史跡指定を目指す予定ではありますが、指定後は、「保存活用計画」を策定し、今後の活用についても策定していく予定です。</p>

3	<p>本計画（案）をみて、埋もれていた峠越えの道の実相がより明らかになりつつある。本事業の成果に大いに期待を寄せている。</p> <p>「整備の短期計画」で最初に整備を行う第4工区は、例年「安政遠足」直前に補修を強いられる箇所、補修しても直ぐに、道が荒れていたと苦情が出る場所なので、最初に整備するのは合理的な判断だと思われる。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>「6.3年次計画」をもとに、事業を進めていく予定です。</p> <p>関係機関の調整や、国庫補助事業の採択といった財政状況にもよりますが、第4工区から工事を進め、第3工区、第2工区、第1工区の順に整備を行う予定です。</p>
4	<p>本事業は、2030年に完成予定となるが、遅すぎる感が否めない。国庫補助事業の活用など財政状況はわかるが、本事業の先には、碓氷関所跡の保存整備も控えているので、全市的な理解と支援をもって、推進されるべきだと考えている。</p>	<p>全市的な理解と協力のもとで進めることができるよう、市民等への計画の周知等を通じ浸透を図りたいと考えております。</p>

(6) その他

番号	ご提出いただいた意見等の概要	市の考え方
1	<p>本整備計画書（案）をもとに、進めていただきたいですが、多くの来訪者が訪れるための仕掛けも同時に考えてほしい。</p> <p>1) 将来のリピーター候補である子供達のための工夫（子供向け看板、記念スタンプ、子供むけパンフレットなど）</p> <p>2) ツアー等企画開発者を対象にした相談窓口の設置や、運営体制づくり。</p> <p>3) 多くの来訪者が訪れるための仕掛けづくり（講演会、シンポジ</p>	<p>ご指摘の内容に類似した内容は、本市観光課も同席する計画検討委員会でもご指摘いただいております。</p> <p>本書は、整備に関する計画をまとめることが主目的のため、こうした取り組みの具体化は記載しておりませんが、観光課とも情報共有を図り、今後別途必要な取り組みを検討していく方針です。</p>

	<p>ウムの開催、見学希望者への対応など)</p> <p>4) お勧め写真スポットの創出</p> <p>5) お土産の開発 (碓氷峠を連想させるお土産を募集、開発する)</p>	
2	<p>重要であるが、市の財政を潤す工夫は何か、考えていってほしい。</p>	<p>市としては、中山道碓氷峠越を観光資源として利活用することが重要と考えております。上記の回答(6)の1のとおり、観光課との連携のもと具体策を検討していく方針です。</p>
3	<p>歴史的資産の痕跡は立体表示や絵図等を用いて、よりビジュアル化して欲しい。</p>	<p>次年度以降、「古道の価値づけ調査」を通じて、歴史的資産の価値を整理していく予定です。</p> <p>その際に、絵図等を用いてわかりやすく可視化する作業を進め、道沿いに設置する解説サインなどにも活用する考えです。</p>

**【問合せ】**

安中市教育委員会 教育部 文化財保護課 文化財活用係  
 電話027-382-7622 (ふるさと学習館内)

Eメール：[urusato@city.annaka.lg.jp](mailto:urusato@city.annaka.lg.jp)